

学会企画シンポジウム 6

インクルーシブ教育と心理学

——差別の現実から深く学ぶ——

- 企画・話題提供：栗田季佳 (三重大大学)
排除・抑圧と向き合うインクルーシブ教育に心理学はど
う応えるか
- 企画・司会：仲 真紀子 (理化学研究所)
話題提供：北原モコットウナシ# (北海道大学)
つないでほどもく アイヌ/和人
- 話題提供：呉 永鎬# (鳥取大学)
差別の歴史性・構造的性
——朝鮮学校へのヘイトクライムを事例に——
- 話題提供：岸 航平# (金子書房)
心理学は差別と向き合ってきたか
——同性愛に対する差別から考える——
- 指定討論：楠見 孝 (京都大学)

企画趣旨：

インクルーシブ教育とは教育における排除や抑圧に対する抵抗の概念として生まれた、教育における人権を表し、かつ保障するシステムである。近年、関心の高まりの一方で、「インクルーシブ教育は障害や特別支援教育の問題である」「みんなで一緒に学ぶことは何らかの教育効果を高める」といった、源流と異なる理解もみられる。本企画では、もう一度インクルーシブ教育の本質に立ち戻り、日本における排除や差別を見つめることから始め、教育心理学が取り組むべき課題について議論する。また、本企画では当事者の方々に多くご登壇いただき、当事者の声を中心におくという、インクルーシブ教育の理念を取り入れたシンポジウムという特徴も併せ持つ。話題提供者の栗田は、インクルーシブ教育の基本的な概念を整理し、障害をめぐる差別と抑圧に対する教育心理学の課題を話題提供する。北原氏にはアイヌ差別の現状について、呉氏には、朝鮮学校を事例に差別の歴史と構造について話題提供いただく。岸氏には、教育場面における同性愛者に対する差別の現状、ならびにこれまで心理学が行ってきた研究を概観し、抑圧されてきた人々の経験をふまえた、教育心理学のオルタナティブなアプローチをご提示いただく。指定討論に楠見氏を招き、インクルーシブ教育を踏まえた心理学の課題について論点を示していただきながら、話題提供者、参加者とともに考えたい。